

開志創造大学院大学 事業創造研究科経営科学専攻 入学者選抜 合否判定基準

1. 採点・評価基準

「開志創造大学院大学入学者選抜方法等に関する規程」に基づき、出願書類審査、口述発表、および面接試験の結果を総合的に評価し、合否を判定する。選抜にあたっては、経営に関する豊かな学識と高度な研究能力を備え、地域社会や国際社会の発展に寄与できる新しい知見を開拓・体系化し、経営現場の諸問題解決に貢献できる人材であるかを多角的に評価する。

2. 評価項目と関連するアドミッション・ポリシー(AP)

各試験科目における評価項目と、経営科学専攻のアドミッション・ポリシー(AP)の関連は以下の通り。

評価区分	評価項目	対応するアドミッション・ポリシー(AP)
出願書類	修士論文等の内容、研究計画の整合性、専門知識	ビジネスに関する「専門的知識・理解」および「表現力」
口述発表	専門的知識・理解、思考力、表現力	ビジネスに関する「専門的知識・理解」、課題を捉える「思考力」および「表現力」
面接試験	専門的知識・理解、思考力、意欲、取組姿勢、表現力	社会貢献への「意欲」、多様な考え方を尊重する「取組姿勢」

3. 合否判定基準

合否の判定は、学則および「本科生の入学試験実施に関する内規(第2章)」に定める以下の評価段階および基準に基づいて厳正に行われる

・評価段階と合格要件

口述発表および面接試験においては、「専門的知識・理解」「思考力」「意欲」「取組姿勢」「表現力」すべての評価項目が3段階以上であることを合格の条件とする。

○評価の考慮: 面修士論文(またはそれに相当する学術論文)および研究計画書の記載内容については、書類審査に加え、口述発表および面接試験における評価においても重要な要素として考慮される。また、評価が1段階または2段階となった場合は、その理由を評価書の特記事項欄に明記するものとする。

○判定プロセス:

1. 評価・判定者: 口述発表および面接試験における評価・判定は、担当教員が協議して行う。

2. 判定会議: 入試委員会および担当教員で構成される「合否判定会議」にて、書類審査書および入学試験評価書の内容を審議し、各受験者の合否を決定する

・最終決定: 入試委員会委員長は判定結果を研究科長に報告し、研究科教授会の審議を経て、学長が最終的に合否を決定する。